

令和元年度第1回福知山市入札制度改革等検討委員会 議事概要

開催日時及び場所	令和2年1月24日（金） 午後2時15分～午後3時15分 三段池公園総合体育館第1会議室	
出席委員名簿（職業）	委員長 <small>たかはし</small> 高橋 <small>ゆきお</small> 行雄（弁護士、元福知山市入札監視委員会委員長） 委員 <small>せきね</small> 関根 <small>えいじ</small> 英爾（ジャーナリスト（元京都新聞論説委員）） 委員 <small>まつしま</small> 松島 <small>かくや</small> 格也（京都大学大学院工学研究科准教授）	
議事概要	1 開会 2 あいさつ（高橋委員長） 3 議事 （1）福知山市入札制度改革等検討委員会の総括について ◇ 入札制度改革により、おおむね期待した結果が出ていることを確認。 （2）入札制度改革の検証について ◇ 今後も福知山市公契約大綱の基本方針を踏まえ、検証を行いながら、改革を継続していく。 4 閉会	
委員からの意見・質問とそれに対する回答	意見・質問等	回答等
	別紙のとおり	別紙のとおり

意見・質問等	回答等
<p data-bbox="240 331 783 412">福知山市入札制度改革等検討委員会の総括について</p> <p data-bbox="240 477 783 842">業者数が増えているが、全国的にも財政状況が厳しい中で業者が増えるというのはどういった理由があるのか。またその背景はなにかあるのか。特に入札契約制度のあり方と業者数の増加には関連があるのか。例えば随意契約が多く、競争性がないために業者数が維持されているというような関係性はあるのか。</p> <p data-bbox="240 954 783 1034">発注数はどういう状況だったのか。減っているのか。</p> <p data-bbox="240 1146 783 1464">予定価格の事後公表について、悪い方向には向かっていないと感じるが、気になるのは、最低制限価格との乖離率が高くなったり低くなったりしているが、どういうことか。平成27年度から入札制度改革を行っているが、それ以前の状況はどうだったのか。</p> <p data-bbox="240 1671 783 1800">低すぎるのも高すぎるのも良くないと思うので、引き続き注視する中で、問題があれば対応していくということだと思う。</p> <p data-bbox="240 1912 783 1995">事前公表と事後公表との比較資料において、ほとんどの場合において、くじ発生率</p>	<p data-bbox="812 477 1355 842">土木一式では、平成27年度と平成30年度を比べると8者増えている。その内容を見ると、独立して新たに事業を始めた業者や、すでに登録業者ではあったが、新たに業種を増やした業者などが増えている。随意契約の適用については限定化しており、特定の業者と随意契約をしているわけでもないため、関連はないと考えている。</p> <p data-bbox="812 954 1355 1034">入札状況の推移をみると、発注数は減っている。</p> <p data-bbox="812 1146 1355 1420">最低制限価格との乖離率の推移は、対象案件数が少ないために、その案件の特性により、ブレが出ることと、また最低制限価格の見直しも随時行っているために、業者が適応するのに時間がかかるのではないかと考えている。</p> <p data-bbox="812 1435 1355 1565">すべて入札制度改革以前の状況については、平成26年度は3.06%となっている。</p> <p data-bbox="812 1912 1355 1995">予定価格を事前公表し、それにより最低制限価格が類推できる場合には、くじ引きが</p>

<p>がゼロになっている。何か特徴はあるのか。</p> <p>地域性を見直しについて、あまり競争性がないと困ることから地域性を拡大することになったが、その時に懸念されたのが、小学校の区域に業者がいない状況が出てくるといざというときに困るのではないかという話があった。この改革において、小学校区域で見た場合に業者の数が極端に少なくなっていることがあるのか。</p> <p>人口が減り、学校の統廃合が行われているが、その影響を受けたようなことはあるのか。</p> <p>プロポーザル方式ガイドラインの成果と課題として価格競争に移行するものがあったとあるが、それは何件でどういう理由によるものか。</p> <p>従来であれば、従前どおりプロポーザル方式によっていたものが、ハードルを設けることにより、価格競争に移行したということか。</p>	<p>多発すると考えるが、福知山市においては、最低制限価格が類推しにくい方法によって算定しているため、くじの発生は少ないと考えられる。</p> <p>業者の増減について地域性の観点で確認をしたが、大きく減っている地域はない。統廃合した地域もあるが、その地域では、小学校区が広がっているため影響があるとは思いますが、今後検証していきたい。</p> <p>少なくとも2件はあった。事務局との事前協議の段階においても価格競争に移行するものもあった。</p> <p>要因については、外部有識者の選定が難しいことや、市の内部で運用委員会を設置して、統一的な基準でプロポーザルにするかどうかの審査を行っているが、そのハードルを設けることにより、各課の職員の意識も変わってきたものと感じている。</p> <p>その通りである。</p>
---	--

入札制度改革の検証について

コンプライアンスについて、具体的に入札を行う中で、業者の気になる動きや、法律には触れないにしても問題だと思ふことがあったか。

検証によれば、順調に制度が動いていることがわかる。今回の検証は、競争性の確保が中心だが、そのほかに公契約大綱にもあるように、適切な労働環境の確保や、地域に貢献する企業の育成という面での指標はないか考えたが、例えば建設業者の賃金はどう推移をしているか、地域ごとの業者数や雇用者数の変化、また、内部通報はどれだけあったのかという視点はどうか。また、地域に貢献する企業の育成については、災害協定も目安にはなるが、近年頻発する災害の際に業者が実際どのような活動をしたのかが大事である。それがわかるような項目を示せばよい。いろいろな落札の形がわかるのは契約事務の一元化された成果だと思うが、できれば次はその枠を超えた情報を集めるとより効果的な検証になると思う。

災害対応で実際にどのようなことがあるのか。防災協定は形式的に結んでいるが、いざお願いしたときにその通り実行できたのか。実行できなかったとすれば、それはどのくらいあったのか。またそれはどういう理由によるものか。それが反映されて初めて地元へ貢献しているかどうか言えると思うが、実際問題として、自然災害が全市に

この間、コンプライアンス上問題となる事象はない。また、そのような動きもない。

示していただいた指標を参考にさせていただく。

一部というわけではないが、労働者の駆け込み窓口は設置しており、相談件数もゼロである。そのあたりも引き続き確認を続けていきたい。また、今回業者数の状況について確認したが、今後も継続して注視していきたい。

この間の大規模な災害においても建設業者は早期の現場復旧等に大変尽力されている。防災協定を結んでいる業者との関係性等事務局として把握できていない点もあり、そのあたりを強化していく必要がある。また、防災協定を結んでから時間が経っている業者もあるため、重機の保有状況や人員体制、意欲も含め、継続して災害の対応

<p>一度に来る中で本当に対応できたのか。その辺の検証はどうか。</p> <p>コンプライアンスの関係で具体的に聞きたいが、電話録音機を設置しているとのことだが、これまでに実際使用した実績はあるのか。</p> <p>最低制限価格の計算方式改正の話が出てきたが、その情報は公表しているのか。また、実際にいつ変更したのか教えてほしい。</p> <p>最低制限価格を改正したタイミングと、最低制限価格乖離率のバラツキの状況が、リンクしているわけではないのか。</p>	<p>をしようとしているのか。防災協定を管理している危機管理部局と調整して対応していきたい。</p> <p>録音機能付き電話を設置してから5年が経つが、使用したことはない。</p> <p>ホームページ等でどの案件から適用するのか周知している。 変更したのは、最近では令和元年5月1日、平成29年4月1日、平成28年4月1日から変更している。</p> <p>必ずしもリンクしているものではない。</p>
--	--